

人のご縁で
でっかく
まきろ!

南クロフネカンパニー代表

中村 文昭

独立して、7カ月で借金を返済し終わったとき、僕はさらに大きなことを考え始めました。結婚式ができるレストランをつくらうと思っただけです。僕の構想を業者の人に試算してもらったら2億は軽くかかると言われてました。23歳の頃でしたから2億と聞いたときは、「この壁はデカイな」と思いました。でも、「とにかくやってみないと分からないやん」という感じでした。

そのとき、僕が目星をつけた場所は市街地から離れた田んぼの真ん中でした。

「アホちゃうか」と言われました。「普通、結婚式いうたら窓から見える景色は海やろ! 誰がわざわざ田んぼの真ん中で結婚式するんや!」と。

だけど僕にはあの「行商スピリッツ」があったから、無理なことにチャレンジすることが面白くて仕方がなかったんです。今思っても本当によつやつたなあと思っても思いません。

目標から逃げないためにリスクをつくる

◇4◇

とにかく、やるのは自分です。ですから、まずは絶対に自分から逃げないと決めました。自分から逃げないためにはどうしたらいいか。リスクを作るしかないと思いました。

□ ■ □ ■ □ ■ □ ■ □ ■

当時、23歳の僕には貯金が1500万あり、月収だけで120万ありました。貯金通帳を見るたびに誘惑されます。「もつといいとこに住みたい」「車も欲しい」と。でも買わん。洗面器持って歩いて銭湯まで行っていました。これは20代の僕には辛かったです。

ですけど僕がこれから始めるプライダルレストランは、今まで誰もやったことがないものにしようと思っていたし、誰も真似できないものにしようと思っていたんです。誰かが成功すると、それを真似てあちこちに似たような店が出てきますよ。

僕がやるプライダルレストランは、みんながうちの結婚式を見た瞬間にため息つくようなやつをやろうと決めていたんです。

「はあ〜これは真似できんわ」と思われるくらいにぶつちぎりのやつをやろうと。

それで、大阪でアンティークショップをやっている知り合いがいて、彼が扱っているのはヨーロッパの150年前とか200年も前のアンティークの家具です。

その人をお願いしましてヨーロッパに買い付けに連れて行ってもらいました。

そして150年前のシャンデリアとかオルゴールとか時計を買い集めました。それから取り壊される教会があつて、その教会にはめ込まれているステンドグラスと床がめつちや気に入ったので、それをそのままレストランに使うと思いました。

調子に乗って買い集めていたら3000万円分買ってしまいました。それでかいコンテナ一つ、まるごとヨーロッパから持って帰りました。1500万の貯金はなくなり、新たに1500万の借金ができました。

帰ってきて親に叱られましたね。「お前、アホか、3000万あつたら新築の家が建てられるやないか」って。

(高鍋西都法人会が主催した講演会にて)